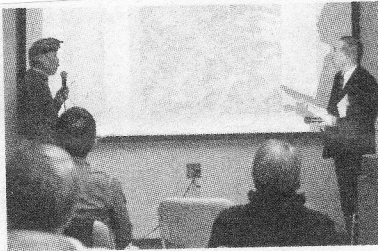


# 市民みんなから 愛される境川に 市民フォーラム開催



十一月二十九日(日)、浦安市文化会館大会議室で「境川を考える市民フォーラム」が開催され

▲昔の浦安の地図や写真を見て当時の振り返りがきかれ、水がきれいだったそう

た。これは、浦安の街づくりに考える市民団体「海・まち・デザイン」が主催したもので、市民ら約三十人が参加し、境川への意見交換を行った。

会場では元県議会議員で、ふるさと浦安かつば村村長の宇田川敬之助氏が昔の境川の様子について語った。宇田川氏が子どもの頃は、川で米を研いだり、風呂がわりに行水できたりするほど、水

は、「境川を船が行き来するようにすること」。その後、参加者による意見交換が行われ、人が自然と集まるような魅力ある境川になって欲しいとの意見が多く出た。水に住む生き物を増やし、

緑に囲まれた環境を望む声もあった。話し合いの中で出てきたのが、境川にある二つの水門に関する意見だ。この水門によって川が淀んで水質を悪くしているという意見と、水門が水

害防止や、排水が逆流するのを防いでいるという意見があがった。境川を変えていくためには、行政を動かす市民の声が必要であり、元町中町、新町の住民が力を合わせることの重要性を

確認しあった。当日の参加者で、浦安に転入したばかりという堀江在住の男性は「境川や浦安の街について、真剣に考えている人たちがいるのが分かって良かったです」と話してくれた。